

# 久山かおる 学位論文審査要旨

主 査 浦 上 克 哉  
副主査 山 本 美 輪  
同 吉 岡 伸 一

## 主論文

認知症対応型グループホーム職員の看取りと死に関する態度 - 訪問看護ステーション職員との比較 -

(著者：久山かおる、吉岡伸一)

平成26年 米子医学雑誌 65巻 6頁～18頁

## 参考論文

1. 認知症対応型高齢者グループホーム職員の看取り体験と死生観の関係

(著者：久山かおる、吉岡伸一)

平成25年 介護福祉学 20巻 34頁～43頁

# 学 位 論 文 要 旨

## 認知症対応型グループホーム職員の看取りと死に関する態度 - 訪問看護ステーション職員との比較 -

近年、認知症対応型グループホーム(以下、GH)は、自宅に代わる居住の場としてだけでなく、生活の延長線上の看取りの場として期待され、GHにおける看取りの数は増加している。重度化や看取りの過程の中で、日常生活への関わりとともに医療的なニーズへの対応が必要となり、医療や介護などの綿密な連携は欠かせない。そのため、GHや訪問看護ステーション(以下、訪問看護)との事業種の異なる施設間の連携は増加していくと考えられる。そこで、職員の看取りに関わる教育や研修経験、また、死別体験などの死に関わる体験や資格と看取りの意識や態度との関連性について調査した。

### 方 法

対象は、鳥取県内のGH53施設と訪問看護の33施設の職員とした。調査は無記名自記式調査票を用いた。調査票の内容は、対象者の属性、死に関する体験、看取りに関わる体験、死生観や看取りに関わる態度とした。死生観の評価は、平井らの死生観尺度を用いた。終末期ケアに関わる際の態度については、「死にゆく患者へのターミナルケア態度尺度日本語版 (Frommelt attitudes toward care of the dying scale: FATCOD-B-J)」短縮版(以下、ターミナルケア態度尺度)を用いて評価し、統計学検定を行った。

### 結 果

GH職員425人(男性80人、女性345人)、訪問看護89人(男性0人、女性89人)から回答が得られた。GHと訪問看護の職員の属性と看取りに関わる体験について比較したところ、性別、平均年齢、婚姻状況、勤務形態の属性について両群間で有意差がみられた。GHでは介護福祉職が8割以上を占め、訪問看護では全員が看護職であった。死についての授業体験と就職後の職場での看取りに関する研修体験(以下、看取り研修体験)については、施設や資格によって差がみられ、訪問看護に比してGHはいずれも体験のある者の割合が低かった。死生観については、訪問看護はGHに比し、「死からの回避」が低かった。属性別の比較では、女性は男性に比し、「人生における目的意識」「死への関心」「寿命観」が有意に高く、

既婚者は未婚者より「死後の世界観」が有意に高かった。看取り研修体験の「ある人」は「ない人」に比して、「死への恐怖・不安」や「死からの回避」が低かった。GHと訪問看護の職員のターミナルケア態度尺度を比較すると、「患者・家族を中心とするケアの認識」については差が認められなかったが、「死にゆく患者へのケアの前向きさ」は施設間で有意差がみられ、訪問看護はGHに比して有意に高かった。また、職場における看取り研修体験の「ある人」は「ない人」に比べて有意に高かった。人生の最期を迎えたい場所と、誰に看取られたいかについて尋ねたところ、人生の最期を迎えたい場所は、GH、訪問看護ともに自宅希望が多く、看取られたい人は、GH、訪問看護ともに家族が最も多かった。

## 考 察

GHと訪問看護の職員の属性と看取りに関わる体験について、性別、平均年齢、婚姻状況、勤務形態の属性は両群間で有意差がみられ、職員の資格については、GHは介護職が8割以上を占め、訪問看護は全員が看護職であった。GHと訪問看護の看取りや死に関する態度は、教育や研修の経験と関連し、資格の教育課程の違いがその理由と考えられ、GH職員の教育ニーズに応じた看取り教育の必要性が示唆された。GHと訪問看護の死生観尺度を比較すると、GHは訪問看護より「死からの回避」の平均得点が有意に高く、また、資格の種類でも看護職に比べて、介護福祉職、その他は平均得点が有意に高かった。看取り教育体験も少ない介護福祉職にとって、人がたどる死の経過は予測がつかず対応方法にも不安があり、回避したいという思いに繋がると考えられる。GHと訪問看護のターミナルケア態度尺度を比較すると、「死にゆく患者へのケアの前向きさ」は施設間で有意差がみられ、訪問看護はGHに比して有意に高く、看取り研修体験が影響していた。しかし、死についての授業体験のターミナルケア態度への影響は認められなかった。介護福祉職員にとって、看取りの経過での医療的な対応についての不安は大きく、職場内で看取りケアの研修が行われる意義は大きいと考える。今後、介護と在宅看取りの推進をめざした多職種間の連携において、訪問看護師には、他職種に対する看取りや死生観に関する教育や研修への期待が大きい。

## 結 論

死についての授業体験や看取り研修体験は、GHと訪問看護の施設や資格によって差がみられた。死生観や看取りに関わる態度も異なり、職員の資格のほかに死に関する教育経験や看取りの研修体験が影響していた。終末期を迎える人の看取りの質の向上のため、職場を越えた連携や看取りに関わる教育方法の検討が必要と考える。